

製品名: SNF5 (19H18) ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe18053**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,FC,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン (pH 7.4)、0.15M NaCl、40% グリセロール、0.01% 新タイプ防腐剤 N、および 0.05% 保護タンパク質で供給されます。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:200-1:500,ICC/IF 1:100-1:200,FC 1:200-1:500,IP 1:20-1:50
分子量	44kDa

抗原情報

遺伝子名	SMARCB1
別名	SMARCB1; BAF47; hSNF5; INI1; RDT; RTPS1; Sfh1p; SMARCB1; SNF5 homolog; SNF5L1; Snr1; SWI/SNF comp
遺伝子 ID	6598.0
SwissProt ID	Q12824
免疫原	ヒト SNF5 の合成ペプチド

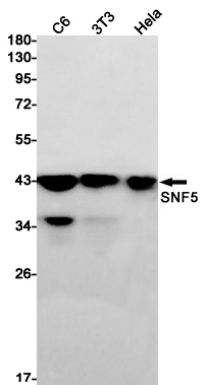
背景

SWI-SNF 複合体は、ATP 依存的にヌクレオソーム構造をリモデリングすることで転写の活性化に関与しています。Brm (SNF2 α とも呼ばれる) と Brg-1 (SNF2 β とも呼ばれる) は、哺乳類 SWI-SNF 複合体の ATPase サブユニットです。BAF (hSWI/SNF) 複合体の中核成分です。この ATP 依存性クロマチンリモデリング複合体は、細胞の増殖と分化、細胞の抗ウイルス活性、腫瘍形成の阻害に重要な役割を果たしています。BAF 複合体は、正常よりも負のスーパーコイルの数が少ない、安定した変化したクロマチンを作り出すことができます。このスーパーコイルの変化は、ポリヌクレオソームアレイ上のヌクレオソームの最大半分が、それぞれ 2 つのヒストンオクタマーからなるアルトソームと呼ばれる非対称構造に変換されるためと考えられます。SMARCA4/BRG1/BAF190A のリモデリング活性を *in vitro* で刺激する。CSF1 プロモーターの活性化に関与する。神経前駆細胞特異的クロマチンリモデリング複合体 (npBAF 複合体) およびニューロン特異的クロマチンリモデリング複合体 (nBAF 複合体) に属する。神経発生過程において、ニューロンが細胞周期を終え成体状態へと移行するにつれて、幹 / 前駆細胞から有糸分裂後クロマチンリモデリング機構への切り替えが起こる。増殖中の神経幹 / 前駆細胞から有糸分裂後ニューロンへの移行には、npBAF 複合体および nBAF 複合体のサブユニット構成の切り替えが必要である。神経前駆細胞が有糸分裂を終えてニューロンへと分化すると、ACTL6A/BAF53A および PHF10/BAF45A を含む npBAF 複合体は、ニューロン特異的複合体 (nBAF) において相対的な ACTL6B/BAF53B および DPF1/BAF45B または DPF3/BAF45C サブユニットと置換されます。npBAF 複合体は、多能性神経幹細胞の自己複製能 / 増殖能に必須です。nBAF 複合体は CREST とともに、樹状突起の成長に必須な遺伝子の活性を制御する役割を果たします (相同性による)。細胞周期制御において重要な役割を果たし、G0/G1 期における細胞周期停止を引き起こします。

研究分野

エピジェネティクスと核シグナル伝達

画像データ



SNF5 抗体 (1:1000 希釈) を使用した C6、3T3、HeLa 細胞溶解物中の SNF5 のウエスタンブロット検出。